

(1) 法学部のカリキュラム構成

学位プログラム「学士（法学）」の到達目標に即した学生の主体的学修を促進すべく、法学部専攻教育カリキュラムは大別して5つの分野（基礎法学、公法・社会法学、民刑事法学、国際関係法学、政治学）に分類される科目群を、学年進行に応じた系統的履修に向けて「積み上げ型」（入門科目、基盤科目、展開科目）に配置し、学生自身の興味や関心、そして将来の進路に沿って体系的・総合的に各授業を選択できる仕組みを提供している。

1年次末までは、文系・理系を越えた幅広い視点から、専門科目を学ぶための基礎教養を修得する基幹教育科目を中心とした履修となるが、前期には、従前の法学部低年次専攻科目である「法学入門」「政治学入門」を実質的に引き継ぐ、主として法学部1年生を対象とする文系ディシプリン科目（「法学入門」「政治学入門」）を履修する。

2年次前学期には、法学・政治学への導入を図る「入門科目」（法政基礎演習）を少人数セミナー形式で開講するとともに、法学部専攻教育カリキュラムのコアをなす「基盤科目」（憲法Ⅰ・民法Ⅰ・刑法Ⅰ・法文化学基礎・法史学基礎・政治学原論・政治学史基礎・政治学Ⅰ）の履修も始まる。2年次後学期以降は引き続き「基盤科目」（憲法Ⅱ・民法Ⅱ・刑法Ⅱ・行政法Ⅰ・国際公法・政治学Ⅱ・政治史）の学修を軸に据えつつ、それを学生自身のニーズに即してより広い視野から、より高い専門性に向けて発展させる多彩な「展開科目」の履修に繋げていくことになる。学年進行に応じて、5つの分野を横断した系統的学修に取り組めば、法学・政治学の専門知識・技能に裏打ちされた問題分析能力・問題解決能力・構想力を着実に培うことができる。

法学部では少人数教育に力を入れており、2年次の法政基礎演習を承ける形で、3年次からは少人数の演習科目（必修科目・通年開講）や外書講読科目（基盤科目）が開講される。演習科目（ゼミナール）では、学生自身の関心に即したテーマで研究・発表を行い、議論を重ねていく中で、主体性をもって自ら問い、論理的に思考し、表現する力を養うとともに、研究成果をゼミ論文として提出させるところも多く、法学部教育の総決算的役割を果たしている。

別表1：専攻教育科目開講一覧（学部学生便覧9頁）

別表2：演習科目開講一覧（平成26年度版）

専攻教育科目開講一覧

開講時期	開 講 科 目 (単 位 数)		
	入 門 科 目	基 盤 科 目	展 開 科 目
1年前期 (第1学期)	[法学入門(2)] [政治学入門(2)]		
1年後期 (第2学期)			
2年前期 (第3学期)	法政基礎演習(2) 【必修】	憲法Ⅰ(4) 民法Ⅰ(4) 刑法Ⅰ(4) 法文化学基礎(2) 法史学基礎(2) 政治学原論(2) 政治学史基礎(2) 政治学Ⅰ(2)	
2年後期 (第4学期)		憲法Ⅱ(4) 民法Ⅱ(4) 行政法Ⅰ(4) 刑法Ⅱ(4) 国際公法(4) 政治学Ⅱ(2) 政治史(4)	
3年前期 以降 (第5学期以降)		労働法(4) 民法Ⅲ(4) 民事訴訟法(4) 商法Ⅰ(4) 刑事訴訟法(4) 比較政治学(4) 外国法律書講読又は 外国政治書講読(2)	演習Ⅰ(4)【必修】 演習Ⅱ(4)【必修】 法理学(4) 法思想史(4) 日本法制史(4) 東洋法制史(4) 西洋法制史(4) ローマ法Ⅰ(2) ローマ法Ⅱ(2) 比較法(4) 英米法(4) ドイツ法(2) フランス法(2) アジア法(2) 中国法(4) 法社会学(4) 法情報学(2) 紛争管理論(4) 行政法Ⅱ(4) 行政学(4) 租税法(2) 社会保障法(4) 経済法(4) 家族法(4) 商法Ⅱ(2) 商法Ⅲ(2) 商法Ⅳ(2) 消費者法(2) 少年法(4) 刑事政策(4) 国際経済法(4) 国際私法(4) 国際取引法(4) 知的財産法(4) 政治学史(4) 現代政治論(4) 国際政治学(4)
卒業必要 単位数	2単位	42単位	36単位(必修8単位を含む)

- ① 1年前期開講の法学入門・政治学入門は基幹教育科目(伊都地区開講・必修科目)です。
- ② 法政基礎演習は1クラス20人程度のゼミナール形式の授業で、10クラス程度が開講されます。
- ③ 特殊講義は展開科目です。
- ④ 基盤・展開科目の中には隔年開講のものが含まれます。また、上の表には含まれない科目が集中講義等で開講されることもあります。詳しくは、法学部HP→在学生(法学部生)ページ→時間割・シラバス等コーナーを確認してください。

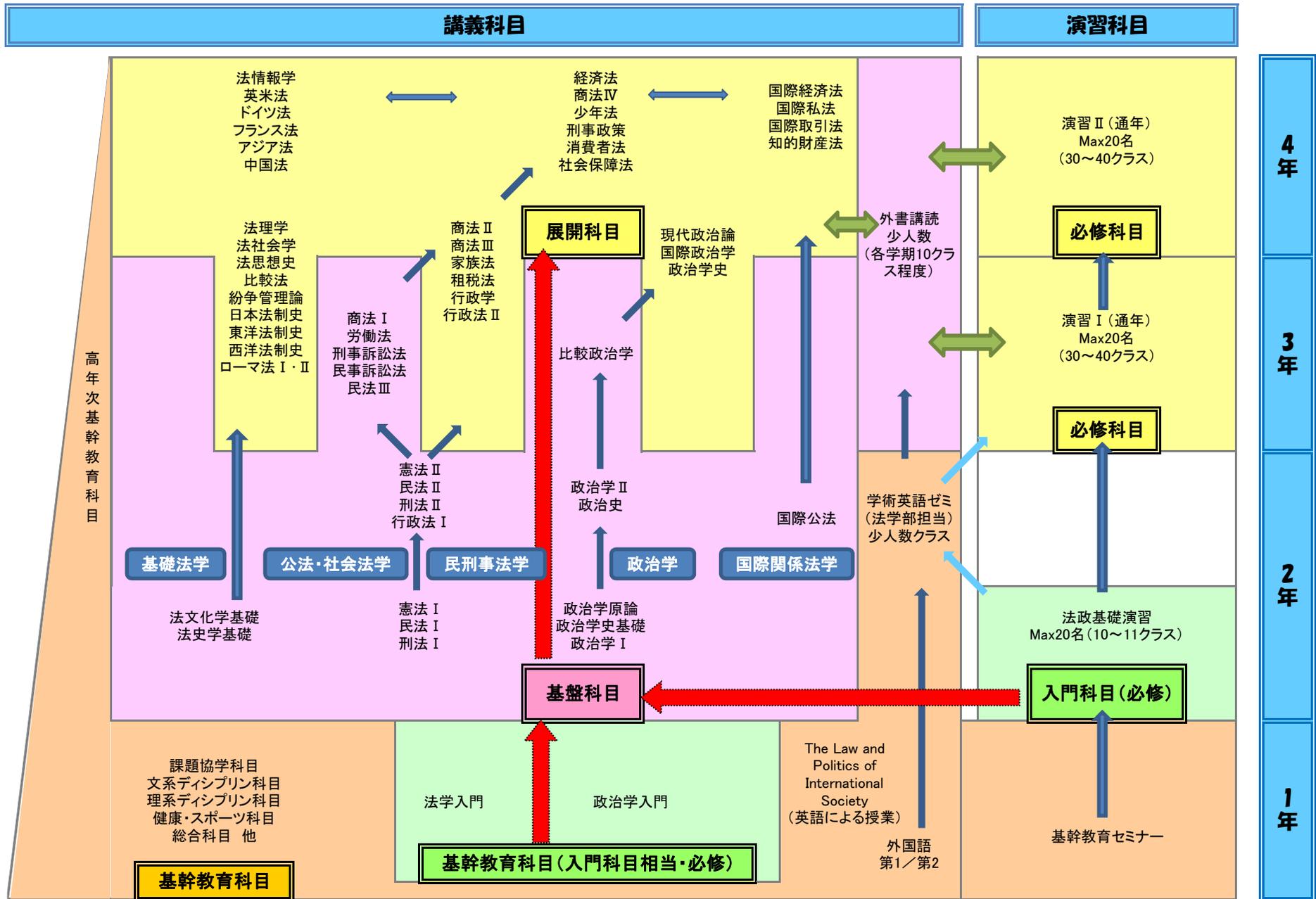
平成26年度法政基礎演習

講義題目	単位数	1週時間	標準学年	担当教員
最高裁判所民事判例の読み方	2	2	2	遠藤
事例を通じて考え・学ぶ民法	2	2	2	赤松
国際社会における法と政治	2	2	2	韓
地方自治の制度と実際	2	2	2	嶋田
法学・政治学の前提を問う	2	2	2	出水
デモクラシー・公共性・地域自治	2	2	2	関口・鎌田厚志
行政法入門ー最高裁判例を素材として	2	2	2	張 栄紅
事例に学ぶ国際法入門	2	2	2	沖祐太郎
近代日本の戦争と外交の歴史について考えるー日中関係を中心に	2	2	2	後藤啓倫
刑事実務演習	2	2	2	高平奇恵
思考する民事法・刑事法	2	2	2	堂前遼司

平成26年度開講演習一覧

演習名	授業科目	講義題目(演習題目)	担当教員	曜日・時限
演習Ⅰ・演習Ⅱ	法理学演習	現代法哲学	酒 匂	金曜5限
	日本法制史演習	日本法制史の重要テーマに切り込む	植 田	木曜5限
	西洋法制史演習	西洋法制史の諸問題	直 江	月曜5限
	法社会学演習	日常生活空間における法と倫理	江 口	火曜5限
	ローマ法演習	ローマ法史料研究	五十君	月曜5限
	中国法演習	現代台湾の法と社会	西	月曜5限
	憲法演習	憲法学の世界	南 野	金曜5限
	行政法演習	最新重要行政法判例を読む	村 上	火曜5限
	行政学演習	行政法判例の研究	深 澤	木曜5限
	行政学演習	「公法訴訟」を読む	田中(孝)	月曜5限
	労働法演習	労働時間等制度の「徹底研究」	野 田	木曜5限
	労働法演習	ワークライフバランス	山 下	金曜5限
	民法演習	新民法演習	五十川	火曜5限
	民法演習	民法の重要問題	赤 松	火曜5限
	民法演習	民法判例研究	七 戸	3年木曜/ 4年火曜
	民法演習	民法(債権関係)改正	田中(教)	金曜5限
	民法演習	相続法の諸問題	小 池	木曜5限
	民法演習	民法(財産法)の基本判例	香 山	金曜5限
	比較法演習	最高裁判事判例と外国法の比較研究	遠 藤	月曜5限
	商法演習	会社法研究	西 山	月曜5限
	商法演習	会社法演習	笠 原	金曜5限
	商法演習	会社法の諸問題	荒	金曜5限
	知的財産法演習	知的財産法の働きを知る	寺 本	月曜5限
	民事訴訟法演習	民事訴訟法の基本問題	鶴 田	木曜5限
	民事訴訟法演習	民事訴訟法の基礎的理解と現代的問題への対応	上田(竹)	水曜3限に開講
	刑法演習	刑法学の総合演習	井 上	金曜5限
	刑法演習	刑法の諸問題	野 澤	木曜5限
	刑事訴訟法演習	刑事訴訟法の現代的課題	豊 崎	水曜3限に開講
	刑事政策演習	刑事政策の諸問題	土井・高平	木曜5限
	刑事政策演習	少年司法の再検討(仮)	武 内	火曜5限
	国際公法演習	現代国際法の諸問題	柳 原	月曜5限
	国際私法演習	国際私法判例演習	河 野	火曜5限
	国際取引法演習	国際取引法演習	松 井	火曜5限
	政治学演習	市場と政府の政治学	出 水	金曜5限
	政治学史演習	地域社会における公共性と意思決定を考える	関 口	火曜5限
	政治学史演習	政治学の「古典」を読む	木 村	木曜5限
	行政学演習	公共政策と自治	嶋 田	木曜5限
	政治史演習	非常事態の政治史	熊 野	金曜5限
	国際政治学演習	国際政治経済の規範と動態	大 賀	火曜5限
	地域統合論演習	比較地域統合	八 谷	木曜5限
	分権型社会論演習	分権改革と市民	大 西	月曜5限

(2) 学位プログラム 学士(法学)のカリキュラムマップ



(3) 学位プログラム 学士(法学)の学年進行と対応授業科目

		到達目標との関連	対応授業科目
1年次	前期	基幹教育科目の履修を通じて大学における学びの基本的知識を習得すると同時に、法学・政治学への導入教育として、専門領域の全体像の理解と、それに固有の方法論(テキストの読み方・資料の調べ方など)の基本を学ぶ。	①法学入門(基幹教育科目(入門科目相当)) ②政治学入門(基幹教育科目(入門科目相当)) ③基幹教育科目
	後期	基幹教育科目を通じて、習得した知識をもとに自ら問いを立て、考える力を養う。	①基幹教育科目
2年次	前期	高年次演習科目への橋渡しとして、2年生ゼミ(法政基礎演習)を通じてゼミ報告や議論のスキルを向上させる。また、法学・政治学的専門知識・技能のコアを構成する「基盤科目」のうち、すべての法学部生が履修することが望ましい基本科目やその後の法学・政治学履修の基礎になる科目を学ぶ。	①法政基礎演習(入門科目・必修) ②憲法Ⅰ ③民法Ⅰ ④刑法Ⅰ ⑤法文化学基礎 ⑥法史学基礎 ⑦政治学原論 ⑧政治学史基礎 ⑨政治学Ⅰ
	後期	引き続き「基盤科目」を中心に、より専門性の高い各論的科目群を系統的・分野横断的に学ぶ。また、専門英語への導入教育として、法学部スタッフによる英語科目を履修する。	①別表1掲載の「基盤科目」(憲法Ⅱ・民法Ⅱ・刑法Ⅱ・行政法Ⅰ・国際公法・政治学Ⅱ・政治史) ②学術英語ゼミ(法学部スタッフが担当)
3年次	前期	「基盤科目」とともに、より専門性の高い各論的科目群を系統的・分野横断的に学ぶとともに、より広い視野から、より高い専門性に向けて、法学・政治学的専門知識・技能の発展を目指す「展開科目」を選択的に履修することで、学生各自の問題関心やニーズ、そして卒業後の進路選択に即して学びの幅を広げていく。	①別表1掲載の「基盤科目」(労働法・民法Ⅲ・民事訴訟法・商法Ⅰ・刑事訴訟法・比較政治学・外国法律書講読・外国政治書講読) ②別表1掲載の「展開科目」(別表2に記載のない科目が集中講義等で開講される場合がある) ③別表2掲載の演習Ⅰ(通年開講・必修)
	後期	3年次前学期からは、法学部カリキュラムの要諦とも言うべき少人数の高年次演習科目(必修科目・通年開講)の履修が始まる。個別専門分野に特化したゼミナールでの研究・発表・議論を通じて、専門的視点に立った高度な問題分析・問題解決・情報発信能力の修得に取り組む。	
4年次	前期	「基盤科目」の履修で獲得した法学・政治学の概念・方法を用いて現代社会の諸問題を的確に分析・説明する基盤的能力をふまえ、学生各自の問題関心やニーズ、そして卒業後の進路選択に即して「展開科目」を中心に学修を深め、法学・政治学に対する総合的知見と、個別専門分野における批判的・創造的な問題解決能力とをバランス良く兼ね備えた人間形成を図り、卒業後も継続するアクティブ・ラーナーとして土台を形成する。	①別表1掲載の「展開科目」(別表2に記載のない科目が集中講義等で開講される場合がある) ②別表2掲載の演習Ⅱ(必修科目・通年開講)
	後期	3年次から継続して履修する高年次演習科目(必修科目・通年開講)では、個別専門分野に特化した研究・発表・議論をつうじて、専門的視点に立った高度な問題分析・問題解決・情報発信能力を磨き、ゼミ論文をはじめとする研究成果のとりまとめを行い、高度の専門性に裏打ちされた指導力・対話力に富む有為な人材としての自己を確立する。	

(4) 学位プログラム学生(法学)の理念と育成すべき人材像

